

第 70 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール東京都大会 金賞

中央大学杉並高等学校 2 年

伊藤 華

課題①

本年は SDGs の中間年。あなたが、ユースリーダーとして SDGs 達成に向けた若者の取組を提案するとしたら、どのような提案をするか。

副題

少数派になって気づくこと

もし、皆さんの高校に肌の色の異なる転校生が来たらあなたは躊躇なく仲良くなろうとすることが出来ますか。

私は今年の夏、トビタテ!留学 JAPAN の制度を活用して、アフリカのルワンダ共和国で 2 週間のボランティア留学を行いました。現地で生活している中で最も感じたことは、自分が少数派の人間になっている、ということです。彼らの肌の色と私の肌の色は明らかに異なっていました。褐色の肌の色をした多くの人々に囲まれ、私はここではマイノリティである、ということを強く実感しました。

私は、今までに何度か、旅行で海外を訪れたことがあります。しかし、その国のほとんどがアジア圏だったので生まれた国は違っていても、自分が特に周りと違う、と感じたことはありませんでした。

しかしルワンダでは、首都はもちろんのこと農村部に入っていくにつれて、アジア系の方と出会うことはほとんどありませんでした。そのため、道があるいているだけで、「ムズング」、すなわち「外国人」という意味を表す言葉をかけられたり、体の上から下までをジロジロ見られたり、ということが日常的にありました。

笑って「HI!」と声をかけるとみんなが返してくれたので、彼らに人種差別的な考えや、悪気は全くないと思いますが、それが毎日続くと、好奇の目で見られることが正直、嫌になってしまいます。私にとってはみんな同じ「ルワンダ人」として映っていても、彼らにとっては初めて会う「ムズング」であるからです。

しかし、いざ自分の日本での行動を振り返ってみると同じようなことをしてしまっていたのではな
いか、と思いました。もちろん人種差別的な意識は無くても、興味本位で自分とは肌の色の異なる
人を異質な目で見たことが一度はあるのではないかと、思いました。このことについて、自分がルワ
ンダで体験するまで失礼だということに気が付かなかったことが申し訳なく思いました。

しかし、ルワンダの子ども達はそんな日本人でも関係なく仲間にいれて遊んでくれました。私がボ
ランティア活動を行っていたナーサリーのスタッフの故郷の農村部の町に行かせてもらった時に、日
本人に慣れていない子ども達がすぐに心を開いて一緒に仲間にいれてくれた事がすごく嬉しく思
いました。笑顔で接して現地の遊びを一緒にすることで、仲間にいれてくれました。交流しようという気

持ちがあれば心を通わせることができるのです。帰る時間がきて、バスに乗る直前まで手を繋いでお見送りをしてくれた子どももいました。その繋いでいる手を見た時に、私はこんなにも肌の色が違う、ということ、そして肌の色や言語なんて関係なく心を通わせることができる、ということを改めて実感しました。

今、日本ではアイヌや外国出身者の方への人種差別やヘイトスピーチが問題になっています。生まれた場所や宗教など、その人の外見的特徴や所属するものによって差別が生まれてしまっています。これらは相手のことをよく知らないことから生まれる偏見が原因となっているのだと思います。実際に対話をしてお互いのことを知ろうとすれば偏見を減らすことができ、問題を解決することができるのではないのでしょうか。もちろんこれらは口でいうほど簡単な問題では無く、解決のとても難しい問題だと思います。

人種差別の無い、未来を作るために大事な鍵を握っているのは私達若者ではないのでしょうか。先ほど述べた通り、偏見は相手のことをよく知らないことから生まれると私は考えます。それに加え、私達は何かを知っているつもりになって思い込んでしまうことがあります。これが偏見となるのです。例えば、SNS 上での情報や周りの誰かの言っていることを信じすぎる傾向があると感じます。そうではなく、実際に相手に寄り添って知ろうとすることが偏見をなくしていくことに繋がるのです。偏見をなくしていくことは、学校での日常生活においても実践できることです。例えば、友達の言っていることを鵜呑みにして、話したことも無いのに一緒に悪口を言ったり、掲示板の噂を信じたり、ということはいく行われていると思います。

しかし、自分の目で見、話を聞くまで本当のことはわかりません。このような小さなことが偏見を生み、国際的な問題にまで繋がってってしまうのだと思います。

全ての人にとって住みやすい社会を作るために、本当に小さいことですが、まずは知ろうとすること、正しい情報を得て、正しい考えを持つことから始めてみましょう。私達の世代が大人になった時に、どのような社会になっているかは今の私達一人一人の行動の積み重ねで決まるのです。

冒頭で述べた質問を、今のあなたはどのように考えますか。

以上です。ありがとうございました。